

フォーラムニュース

特定非営利活動法人奈良21世紀フォーラム会報

2015 年新春号 No.26

平成26年実施の主な事業

- 2月5日 御朝拝式参観
- 3月4日 大和ガス(株)会社見学会を開催
- 5月15日 ウラベ木材工業見学会を開催
- 7月4日 (株)本家菊屋会社見学会を開催
- 7月29日 吉野山の魅力を探る

《以上 会報 No.25 で報告》

- 9月6日 第5回全国源流サミットに協力
- 9月24日 奈良トヨタ自動車(株)会社見学会を開催
- 10月25日 第5回大仏書道大会
～26日
- 11月1日 平城京天平祭・2014 秋
～9日 古代行事の再現「万葉蹴鞠」に出演
「万葉蹴鞠体験コーナー」蹴鞠指導を開設
- 11月14日 錦秋の室生寺、二つの顔を探る
- 11月26日 桜井記紀万葉歌碑原書展の開催
～30日

奈良県企業人列伝の冊子発行
4刊



年頭のご挨拶

理事長 堀井良殷

平成27年新春を迎え、日本の国家安寧と奈良21世紀フォーラム会員各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

昨年末の総選挙の結果、安定した政権運営の状況が生まれ、ここ数年、日本は鋭意、山積する内外の課題の解決にあたることになりました。

わけてもアベノミクス第三の矢の成否は地方創生にかかっています。

地方創生は、行政だけに任せるのではなく、民が自ら考え、知恵を出し、立ち上がり実行してこそ本当の地域の力が生まれます。

その意味で昨年、奈良21世紀フォーラムが先導して成功させた万葉歌碑原書展は行政だけでは出来ない、民だけでも出来ない、公民協働によって初めて成功させた好例となりました。昭和を代表する文人の筆墨が一堂に集められ、一挙に展示され、しかも内容がすべて日本人の心の故郷とも言える万葉集であるという展覧会は、他に追随を許さない、まさに記紀万葉プロジェクトの金字塔となりました。

また書の文化伝承のための大仏書道大会、万葉けまりの復元、歴史文化資源の探訪など、地域の伝統を創造的に未来に活かす目覚ましい活動を展開して頂きました。

さらに奈良県の企業文化の調査、紹介活動では、企業見学会とともに企業人列伝が第8号まで発刊されるなど、歴史的にも価値のある資料を提供できたと思います。

吉野川の源流の森を守る活動も粘り強く継続され、まさに継続は力なりを証明し続けています。これらすべて会員各位の貴い貢献によって実現したもののばかりです。

財務基盤の強化など、課題もありますが、奈良21世紀フォーラムのようなNPOが奈良にあって良かった、という声に応える為にも、どうか平成27年も皆さまのお力をお貸し下さいますようお願いいたします。



【平成26年9月から12月に実施した事業】

1. 万葉けまりの保存

◎平城京天平祭・2014秋 古代行事の再現「万葉蹴鞠」に出演

平成26年11月1日(土)から9日(日)の間、平城宮跡に於いて、「平城京天平祭・2014秋」が開催され、11月8日(土)には、当フォーラムから古代行事の再現・万葉蹴鞠に出演いたしました。また、元サッカー日本代表柳本啓成氏(奈良市在住)のゲスト出演や天理大学雅楽部OBの演奏協力もあり、大変盛り上がりしました。

その他、1日、2日、3日、9日の4日間「万葉蹴鞠体験コーナー」を設け一般参加者に蹴鞠指導を実施するなど、蹴鞠体験を通じて、蹴鞠の楽しさや蹴鞠に対する理解を深めていただきました。



入場行進



解説される当フォーラム福嶋監事、元サッカー日本代表柳本氏(中央左から)



青空の下、演技が行われる



参加者全員で

2. 書の文化の伝承

◎第5回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 平成26年10月25日（土）～26日（日）

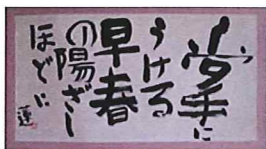
会場 東大寺大仏殿西回廊

従来の書道大会が教科書的な技術を競うのに対し、奈良21世紀フォーラムが主催する「大仏書道大会」は、基礎技術はもちろん大切な要素としながらも、書の文化の伝承のため、これからの書の可能性を感じさせられるような自由な感性を重要視するユニークな試みです。

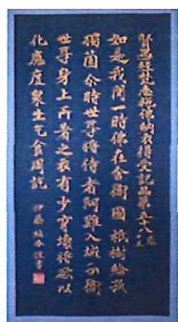
平城遷都1300年記念の平成22年に始まった大仏書道大会も今年で5回目を迎えました。全国の74高校・大学・個人から1580点もの応募があり、前年より数百点増加しました。東大寺の森本公誠長老を審査委員長に迎えて100点の入選作品を選び、なかでも優れた7点を特別賞としました。

特別賞 7点

奈良県知事賞



奈良県教育長賞



奈良市教育長賞



東大寺賞



朝日新聞社賞



奈良市長賞



奈良21世紀フォーラム理事長賞



奈良県知事賞「早春の陽ざし」

山の手養護学校（北海道札幌市）塩田蓮さん

奈良県教育長賞「賢愚経（大聖武）」

芥川高校（大阪府高槻市）伊藤結香さん

奈良市長賞「花」

糸島高校（福岡県糸島市）志渡澤彩華さん

奈良市教育長賞「大仏様の左手で願いを叶える」

草加高校（埼玉県草加市）渡邊加奈子さん

東大寺賞「般若心経」

山の手養護学校（北海道札幌市）木明遥さん

朝日新聞社賞「人面土器が伝える想い」

草加高校（埼玉県草加市）辰己絵里子さん

奈良21世紀フォーラム理事長賞「また明日。」

今宮高校（大阪府大阪市）尾崎愛衣奈さん

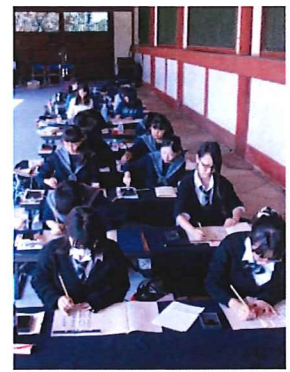
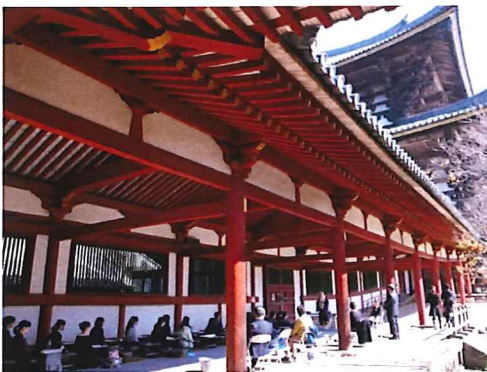


厳正な審査が行われる

100 点の入選作品は平成 26 年 10 月 25 日（土）から 26 日（日）の 2 日間、大仏殿西回廊で展示しました。国の内外・老若男女を問わず約 1200 名もの来場があり、境内の静寂な雰囲気の中、多くの方が足を止めては見入っていました。



26 日には「席書会」を回廊で行い、約 20 名の高校生・大学生が参加しました。森本長老から大仏さまをめぐる遠大な思想について講話いただいた後、筆を取りました。華嚴経のエッセンスである華嚴唯心偈（百字心経）を写経し、自由題で創作作品を書き、大仏さまの前へ登壇して奉納しました。



3. 「奈良の歴史文化資源」の探訪

◎錦秋の室生寺、二つの顔を探る

実施日 平成26年11月14日(金)

参加者 19名

小春日和の好天に恵まれ、室生寺探訪は実施された。まずは、奈良市より東南へ約43キロの大野寺を目指した。対岸の室生火山が生んだ屏風のような大岩壁を切り込んで線刻された像高十一メートル余りの磨崖仏を拝観後、貸し切りバスは四キロ先の室生寺へと向かった。



大野寺磨崖仏

奈良県と三重県の県境、幾重にも連なる深い山を背にする静かな隠れ里「室生」。山ふところに抱かれて樹々に埋もれるように室生寺がある。山肌のわずかな平地をつなぐように配置された伽藍は、鮮やかに色付いた紅葉や常緑樹に溶け込み、つつましくも優美に佇んでいる。

気品にみちた仏たちは、悠久の時の流れの中、人々の迷いや苦しみに、慈しみに似た眼差しを注いでいる。かつて聖地高野山が女人禁制とされていたのに対し、室生寺は多くの女性たちに救いの手をさしのべてきた。訪れる人たちを包み込むような優しさで迎えてくれるこの寺を、いつの頃からか人知れず「女人高野」といわれるようになった。



室生寺太鼓橋で中田紀子講師
の説明を受ける

室生川に架けられた朱塗りの太鼓橋をわたる。多くの人たちは門前の石柱「女人高野室生寺」の文字に引き込まれるように急ぐが、ちょっと立ち止まり、橋の上から寺を取り巻く周辺を遠望する。山並みが蓮華の

花卉で、花芯の部分に室生寺があることがよく分かる。樹齢千年を越す杉の古木の下を進む。川沿いの色づいたもみじが日に照り映えて美しい。仁王門をくぐると幅広い石段の「鎧坂」が見えてくる。円みをおびた石の配列の妙。これまで数限りない人たちが登っていた気配がひとつひとつに残っている。このたゞずまいの美しさは両側にシャクナゲが咲く頃には観光客の人混みにその良さがかき消されてしまう。

石段を登ると正面に、樹々に溶け込むように佇む金堂がある。柿葺きの屋根の流れるような勾配、側面は白い化粧が適度に変色した板壁、この伽藍が経てきた奥行きが感じられる。

訪ねた時期は、金堂内陣に入ることができ、五



秋色の室生寺境内

仏とその前に並ぶ十二神将を間近に見ることができた。中央にひととき大きな国宝釈迦如来像。体は漆で黒く塗られ、赤い衣をまとったお姿は異彩を放つ。その横の、向かって右に薬師如来像と地藏菩薩像を安置、反対の左側には文殊菩薩像を、そして左端で静かにたたずむ十一面観音菩薩像。ふっくらとした頬、朱をさした小さな口、艶やかで深味がある。まるで少女のようなお顔たちだが女性のように包み込むような優しさに満ちている。左手に持つ水瓶は、ふりかけると一切の心の穢れが消えるという「八功德水」に満たされているという。この仏さまは人々の迷いに合わせて姿をかえ、救いの手を差し述べてきたというから、どれほど多くの女性たちが救われたことだろう。

本尊背後の壁の五枚板に描かれた国宝「伝帝釈天曼荼羅」。帝釈天は密教の守護神であり、雨をもたらし、病気を鎮めるとされている。仏像に隠れて一見人目につかないこの帝釈天がもたらす雨、すなわち水こそが室生寺の誕生と深くかかわっていたのだ。

室生寺を有名にしている国宝五重塔は金堂よりさらに奥の石段の上に端然と立っている。その高さ約十六メートル、興福寺の塔の三分の一にも満たない可愛らしい塔はまるで森に舞い降りた天女のような姿もある。



五重塔を望む

室生寺がある室生一帯は太古の火山活動によって形成された独特の地形をしている。周囲は火山の外輪山であった一千メートル級の峰が連なる。

山は水を生み、人は大地をうるおす水に神の存在を見いだした。この地はいにしえより水神信仰の霊地としてあがめられてきたのである。そのことが実感できる場所がある。室生寺から室生川に沿って一キロメートルほど上流の深い杉木立に囲まれた「室生龍穴神社」と、さらにその背後へ八百メートル山深く入ったところにある「龍穴」である。



龍穴

神社の幽玄な境内を進むと、柿葺きの小さな拝殿がある。奥には老杉に溶け合うように本殿が建っている。社殿にはこのような言い伝えがある「その昔、龍が奈良の都の興福寺横の猿沢池に住んでいた。しかし、そこは、帝に仕える采女が身投げをしたことから穢れを嫌い、春日山に移り住んだが、そこにも死人が捨てられていたため、室生に住むようになった」。

神社の裏の洞穴、つまり「龍穴」こそが移り住んできた龍の住み家だとされている。巨大な岩壁の隙間が奥深い穴となり、張られた注連縄の下を豊かな水が流れ、なんとも不思議な霊気がただよう空間である。

伝説はいつしか土着の水神信仰と結びつきこの穴に住む龍が雨を降らすと信じられてきた。そして、龍神信仰はさらに仏教を守護する龍王と結びつき、この地は密教的

な雨乞いの霊場として発展してきたのだ。

室生寺はこのような室生を包み込む神秘性に注目した興福寺の高僧・賢憬らにより、開基されたという説が有力。しかし、室生寺は龍神を守護する神宮寺に始まるとも。

「女人高野」と「水神信仰」の二つに絞って見た今回の室生寺探訪は、最後に拝した神秘的な龍穴の余韻をひきずりながら、予定通り終了した。参加者のみなさんは、それぞれに印象に残った場景を脳裏に焼き付けながら帰路に着いた。

4. 「万葉歌碑」の顕彰

◎「桜井記紀万葉歌碑原書展」の開催

平成26年11月26日から30日の5日間、あべのハルカス近鉄本店近鉄アート館において、桜井記紀万葉歌碑原書展を開催いたしました。

これは、奈良県が推進する「記紀万葉プロジェクト」事業に連携して、桜井市が所蔵する記紀万葉歌碑の原書を展示するもので、桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会と奈良21世紀フォーラムが共同して「桜井記紀万葉歌碑原書展実行委員会」を組織し、主催いたしました。

展覧会では、川端康成、湯川秀樹、朝永振一郎などのノーベル賞受賞者や昭和を代表する芸術家、文学者をはじめ各界の文人墨客の揮毫による原書47点や拓本17点等が展示された他、奈良市写真美術館の協力を得て、入江泰吉「万葉写真展」を併催いたしました。また、展覧会開催期間中、5日間にわたり万葉講演会を開催いたしました。この他、同展覧会の図録(2000部)を制作し、販売を行いました。

期間中の展覧会への来場者は約1200名、万葉講演会は約400名を数え、好評裏に閉幕いたしました。

以下、11月25日の内覧会ならびに展覧会等の様子を写真でご紹介いたします。

☆内覧会



テープカット



挨拶される堀井実行委員長
(当フォーラム理事長)



☆ 展覧会



5. 奈良県企業の企業文化、企業風土の調査紹介

◇ 企業見学会

◎ 奈良トヨタ自動車(株)会社見学会を開催

実施日 平成26年9月24日(水)

参加者 25名

9月24日、興福寺檀家総代を務める奈良トヨタ自動車菊池社長の肝煎りで、同寺中金堂の再建工事現場を見学しました。

再建工事は2018年(平成30年)の落慶をめざし創建当時の復元を図るべく古代の建築様式を踏襲した工法を採用、既に2層からなる建物の屋根には板が敷かれています。その工事手法は、現物のダミーを造り現場に置いて実物の大きさを決めるという現地・現物による方法を採用しています。感覚や感性を大切に、実際に即してモノづくりを進めるというこの手法は古代の日本の職人のDNAが現代に引き継がれている証しとも言えます。興福寺見学を終え、奈良市八条町の「レクサス八条」店に入りました。ジェネラルマネージャーの概要説明をお聞きした後、2班に分かれ斬新なお茶室で大和茶をいただき、店内施設を見学しました。



レクサス八条からバスで約20分、いよいよ奈良トヨタ自動車本社に到着しました。まず本社店舗のショールーム、社長室、続いて整備工場、「トヨタL&F奈良」を見学しました。

昼食後、3階大会議室でスライドによるトヨタ自動車VIPの社内歓迎風景や奈良県下での神社仏閣視察の様子を観賞、引き続いて菊池社長からお話をうかがいました。

菊池社長は、今日の興福寺中金堂工事現場見学は古代日本のモノづくりの原点をご覧くださいそしてこの後のジェイテクト工場で現代のモノづくりを見ていただくという思いからだと言われました。当社にはトヨタ自動車のVIPが頻繁に足を運んでいただいているが、これは数あるトヨタ車系ディーラーの中で当社のみであるとされ、トヨタ自動車と奈良トヨタ自動車の70数年にわたる交流と連繋の歴史を披露されました。

先人の思いを引き継ぎ地域に生きる当社は、平城遷都1300年の記念事業や20年に一度行われる春日大社造替にあたりトヨタ自動車に多額の寄付をお願いしてきたが最後には社内の枠を超えて応じていただいた。世界企業トヨタ自動車と奈良の絆をより強いものにするためには同社のVIPに奈良への関心をいかにもっていただくかにかかっている、このように奈良をこよなく愛する経営者である菊池社長ご自身の腐心の一端を率直に披瀝され、最後に、トヨタ自動車が全世界の37万人の従業員



挨拶される菊池社長

に対してトヨタの企業理念を理解してもらうための標語「トヨタウェイ」を紹介していただきました。①CHALLENGE（チャレンジ）、②KAIZEN（改善）、③GENCHI & GENBUTSU（現地現物）、④RESPECT、⑤TEAMWORKの5つです。改善と現地現物はそのままで世界に通じる言葉になっています。

極めて短時間でしたが、菊池社長の経営哲学の源流を知るよい機会となりました。

講演終了後、トヨタグループの一員で橿原市雲梯町にある(株)ジェイテクト奈良工場へ。河上副社長から同社の概要をまた東野工場長から奈良工場の概要をご説明いただきました。2013年（平成25年）パワーステアリング全体での同社の世界シェアは26%で、世界初のパワーステアリングを開発したのがこの奈良工場です。との概



要説明の後、検査室や電波暗室という検査場を見学、さらに検査棟から構内バスで移動し最新鋭の第4工場の製造現場に入りました。ここでは、各種のパワーステアリング装置を月産40～43万台生産しています。

工場見学終了後、会議室で質疑応答が行われ最後に菊池社長から、ジェイテクトさんに対し謝辞が述べられ、同社見学



会は終了しました。

世界歴史遺産の多くの寺社仏閣を抱える奈良は日本のモノづくりの原点でもあると言えます。トヨタ自動車は、そのモノづくりにおける現場での飽くなき工夫改善によって世界の頂点に立っています。菊池社長は、奈良とトヨタ自動車との関係を日本の精神文化と日本のモノづくりとの関係に見立て両者の融和合一がさらに優れた製品とサービスを創造していくのだと考えておられるのかもしれません。(T. H記)

◇奈良の風土産業 企業人列伝発刊状況(平成26年4月～12月)

第5号 ウラベ木材工業 代表 ト部 能尚 (平成26年4月20日発行)

第6号 (株)三輪そうめん山本 社長 山本 太治(平成26年7月20日発行)

第7号 奈良トヨタ自動車(株) 社長 菊池 攻 (平成26年8月18日発行)

第8号 三和澱粉工業(株) 会長 森本 俊一 (平成26年11月13日発行)

※在庫が少々あります。希望者にお分けいたします。(実費)

6. 「吉野川の源流の水源地の森を守る活動」支援

◎第5回全国源流サミットに協力

9月6日、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」の一環として、吉野郡川上村の川上総合センターにおいて、9月5日から9月7日までの3日間にわたり開催された「第5回全国源流サミット」に当フォーラムのメンバーが参加し、受付業務等の協力を行いました。

奈良県での同サミットの開催ははじめてで、全国の源流に位置する市町村(9県19自治体)の代表や関係者など、メインの行事が行われた6日には約500人が参加しました。

サミットでは、源流の魅力と役割を再確認するとともに下流域との交流、連携などについて意見交換が行われました。



会員の皆様へ



今後とも各種行事への参加、ご支援よろしくお願いします。

○お知らせ

「桜井記紀万葉歌碑原書展図録」の在庫若干ございます。



ご希望の方は、当フォーラム事務局
までお問い合わせください。

定価 2000円（税込）

2015年1月発行

編集 足立伸之助、岡田耕一、中村優造

発行 NPO 法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒630-8244 奈良市三条町 511-3 奈良交通第2ビル